

ホーム名：グループホームほほえみ					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々の尊厳を守り、安心して生活を続けていけるように理念にも掲げ全職員これを共有し実践につなげている。	「尊厳を守り健やかで”ほほえみ”のある暮らし」を理念に掲げている。分かりやすく、管理者の意識が感じられるが、玄関、リビングには掲げられていない。	ホームの家庭的の雰囲気はまさに理念の実践である。玄関に掲げ来訪者・家族にアピールしていただきたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者自身も自治会員、老人会員でもあり、法人代表者もこの地域の自治会長ということもあり、行事や催しにも積極的に参加して交流を深めている。	ホームから全入居者の自治会費を払い会員になっている。地域のバス旅行に行ける入居者は職員と参加する。だんじり祭りのときはホームの前で引き回しをしてくれる。	地域との交流は出来ている。近隣の中学生の体験学習受入や地域の方々には認知症学習会も考えている。専門知識の地域への還元で貢献していただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護についての相談窓口はあるものの、学びや支援方法の普及といった積極的な活動はできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員に出席を依頼すると共に会議での意見は真摯に受け止め改善の取り組みを行い、サービス向上に活かしている。	運営推進会議の開催はほぼ3ヶ月ごとに開いている。市担当者に要請はしているが参加は得られていない。議事録によると意見もよく出て活発な会議となっている。	市担当者・包括支援センターの職員・出席依頼者が欠席したときは、議事録を届け次回の日時を知らせるなどし、出席につながる努力をして見られたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	適時連絡報告はしている。市の指導事項には速やかに改善を行いサービスの質向上に取り組んでいる。	市の担当の窓口には報告などの連絡はしているがそれ以上の関係は出来ていない。	行政の対応は大変地域差がある。熱心に参加する市町村が増えてきている現在、介護保険の現場をしっかりと行政に見ていただき、介護の実践現場の理解を深めてもらうために積極的な働きかけを期待する。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については極力しないように心掛けているが、やむを得ない場合や安全確保の観点から行う場合もある。その他の身体拘束についての具体的な行為は行っていない。	身体拘束について職員に研修や会議で話している。職員も何が身体拘束になるかを理解できている。	家庭的雰囲気のホームの中で身体拘束はされていないが、正しい理解を確認し、広い意味の身体拘束についても職員と話し合う機会を作って欲しい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	十分な研修機会を設けている訳でもなく今後の課題である。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度について研修機会をもち、新たに成年後見制度を活用した入居者もいる。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者から説明を行い、理解・納得をもらった上、署名捺印を頂いている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談のなかでの意見については職員に周知を行っている。意見箱を設置しているが、意見・要望などが無く検討事例はない。</p>	<p>要望などはその都度電話、面会時に口頭で聞くことが多く、特に苦情箱には入っていない。</p>	<p>入居年数も長く、入居者本人・家族との意思疎通もできている、要望はあるが苦情はない。家族が何でも言える関係の構築が出来ている。これからも良好な関係づくりを継続されたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ミーティングや日々の申し送りの時、又個人的にも聞き取りなど行い意見を反映し改善に取り組んでいる。</p>	<p>職員ミーティング時、普段気がついた時など管理者には伝え易い関係が出来ている。実践研修で習ったことを提案し取り上げられた。</p>	<p>職員の定着年数も長く、日常の業務中に気づいたことを提案し、取り上げられることで張り合いも出ている。管理者はじめ職員の前向きな姿勢は評価できます。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>実績に応じて昇給を行い、職員の長所を伸ばしていけるような職場環境の整備に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的内部研修を行い、必要に応じて外部研修にも参加してもらっている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>他のサービス事業者とも定期的に交流の場をもち意見交換を行い質の向上に取り組んでいる。</p>		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の悩みや不安について同じ目線になって共有してアセスメントに活かすように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族の悩みや不安について同じ目線になって共有してアセスメントに活かすように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族の状況を踏まえニーズに即したサービス、社会資源の有効活用などを提案している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>その人の人生・価値観に共感して信頼関係を築くように努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の想いを理解して信頼関係を築くように努めている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>お手紙や電話などで連絡をとり関係維持に努めている。</p>	<p>友人に電話をしたい入居者に、職員が電話を掛けることを手伝っている。</p>	<p>入居年数が長くなり、昔の馴染みの所に行く機会は減っているが、入居者の要望に添った支援の継続を期待する。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>一緒に過ごす時間を持ち団欒、レクリエーションなどで関りを深めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>お便りや電話などでホームの近況など報告している。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員側の都合を押し付けるのではなく入居者本位に立った思いやりあるケアを実践している。意思疎通の困難な方についてもこれまでの生活歴、習慣を考慮し本人らしくあり続けるためのケアに努めている。	管理者は職員に自分の仕事を優先させるのではなく、入居者に寄り添うことも仕事である。入居者を最優先にということを常に指導している。	職員は管理者の方針を理解して、職員の笑顔が入居者の笑顔につながると言う気持ちで日々仕事をしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	生い立ちや生活歴について情報収集を行い現状把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人のペースを維持できるように残存機能を活かせるように把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの課題・ニーズの把握に努めその都度評価を行いそれを反映した介護計画の作成をしている。	毎月、介護日誌の評価を行い、短期終了後、サービス担当者会議で入居者の要望・家族の意見・医師の意見を取入れて、介護計画に反映し作成している。	毎日の生活の中での変化を見落とすことの無いよう職員の注意深い観察が求められる。職員の更なる研鑽を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録や申し送りなどにより些細な気づきを活かし実践や計画の見直しをはかっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて臨機応変な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で安心して暮らしていけるように公的なサービスも活用しながら支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	週1回内科医による往診にて健康管理を行うとともに必要に応じて専門医の受診が出来るように支援を行っている。	内科医・歯科医の定期的往診を受けている。歯科の治療の必要な入居者は毎週治療を受けている。	職員は往診にも付いて行き、家族のように生活の全てをサポートしている。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護記録等に日々の変化など記録するとともに気になることや、応急処置といった対処法など相談、助言を行っている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>相互に情報交換を行い、早期退院に向けて連携している。</p>		
33 12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>指針を定め、本人・家族にも説明し同意を得ている。また、スタッフ全員にも共有している。</p>	<p>看取りの指針は作成して職員体制を作って入居者の看取りまでを視野に入れた支援をする方針である。看取り指針の方針が打ち出される前から、4人の入居者を終末ぎりぎりまで介護し、最期を病院で終えられた。</p>	<p>開所以来、管理者としては入居者の終末までのお世話は当然との考えでいる。住み慣れたホームでの終末ケアは入居者の望みと言える。家族・職員・医師の協力体制のもと成し遂げられることとも言える。更なる支援をお願いします。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>資料を用いて研修を行ったことはあるが具体的に訓練を行ったことはない。</p>		
35 13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>職員に対しては避難マニュアルの周知を行っている。消防法を遵守し年2回避難訓練、防火訓練を行い、火災通報装置・報知器を設置している。</p>	<p>職員だけで避難訓練はし、消防署には報告のみしている。スプリンクラーの設置は終了した。今後は消防署には年1回の訓練に参加していただくことを考えている。</p>	<p>備蓄品に関しては簡易トイレ、オムツは出来ている。その他の水・食糧の備蓄もされたい。地震に関しては「グラット来た時」にまずどうするかを職員とも話し合っておきたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個人の尊厳、価値観を尊重し寄り添う介護を心がけている。</p> <p>職員にはまず入居者の心に寄り添うことを最優先に考えるように指導している。職員も入居者が生きてこられた背景を尊重している。</p> <p>尊厳を守ることは、職員が心から入居者に対する思いやりがあると態度や言葉に滲み出てくるものである。入居者に対し、いやな思い恥ずかしい思いをさせないこと、職員の更なる研鑽を期待する。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居年数が長くなり、食事の準備ができる入居者が減ってきているが、職員と手伝える入居者として作っている。時には出前のおすしを取ったりする。年末年始の特別食・行事食もある。</p> <p>配膳の手伝いをする入居者は全員のお湯飲み・お箸を覚えていて、食事前の仕事として毎日準備している。ミキサー食は美味しく食べられるようメニューを変更し作り変えている。また、職員は見守をしながら、入居者と同じものを食べるので、自然に調理工夫に反映されてる。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>「自立支援はトイレから」の思いに個人の尊厳に配慮している。昼間・夜間もパット・リハビリパンツ・オムツの使用者もいるが、リズムを把握して誘導をしている。</p> <p>排泄の自立支援は最も入居者本人が望むところである。また尊厳の確保が求められる場面でもあり、更なる職員の支援をお願いする。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日は月曜日・木曜日としているが、介護度の高い入居者は別の日に入浴日を設けている。希望があれば毎日の入浴にも対応する。</p> <p>高齢になると入浴をしたがらない傾向があるとのことである。入浴までの動作が大儀感があるのではないかと、楽しい入浴となるような工夫と支援を願う。</p>

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>これまでの生活リズムを維持していくことに努め、就寝時間もそれぞれに合わせ、安眠支援を行っている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>入居者ごとにクスリの一覧表を作っており、職員にも周知をはかっている。また、副作用についても研修をおこなっている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>生活歴、趣味・嗜好を把握し少しでもストレスを軽減し本人らしく生き生きと過ごしてもらえるように見守りしている。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。</p>	<p>大型スーパーや普段行かない公園、喫茶店やその他飲食店など個別、他入居者とも出かけられるように支援している。</p>	<p>外出は近くの公園・大型スーパーマーケット・ショッピングモールなど個人の要望で行ったり複数で出かけたりしている。初詣以外も近所のお参りもする。中遠出も気候の良いときに出かける。</p>	<p>外出するとホームでは見せないよそ行きの顔になり、足腰もしゃんとしたように見受けられることである。外出することは社会に触れ、草木を見て季節の移ろいを感じ、五感の刺激になる、更なる支援を期待する。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>少額ではあるが、自身で管理してもらい、身の回りの物や、嗜好品の買物などに使用している。その際の金銭の収受についても間違いのないように管理している。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p>	<p>希望に応じて電話の取次ぎや手紙の投函などの支援を行っている。</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>一定の温度調節、体感に応じた温度調節等を行い、照明、採光、不快音などにも注意を払い快適に過ごしてもらっている。</p>	<p>玄関には花壇があり、中に入ると家庭的な玄関である。管理者はそこにべたべた掲示物を張ることは家庭的にならないとの考えがある。リビングは左程広くはないが、昨年の敬老の日にリビングでボランティアによる、生バンドの演奏会を催し、近所の方、家族も参加した。</p>	<p>正に「狭いながらも楽しい我が家」と言う部屋である。皆一つのテーブルで楽しく団欒している。生バンド演奏の時は（テーブルを片付け）皆さん本当に楽しまれたことと推察する。独りでいる居場所も設けている。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>スペース的には十分ではないが、独りで居られる空間は確保している。また入居者同士談話したりのリハビリと過ごしてもらえるような居場所は確保している。</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>馴染みの家具や使い慣れた持ち物を使用してもらい、混乱なく安心して過ごしてもらえるように工夫している。</p>	<p>どの部屋も自分の物を持ち込み、部屋の入り口にはそれぞれ気に入った暖簾をかけてあり、部屋間違いもなく個性的な部屋になっている。各部屋にはカレンダー・時計を配置しており、日時の認識後退防止に配慮されている。</p>	<p>自分で片付けることが難しくなってこられた入居者には清潔な、四季折々が感じられる部屋づくり支援の継続をお願いします。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>残存能力を引き出せるように安全に配慮し、本人のペースで生活が送れるように見守り声掛けに努めている。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない